

「カードを使うという発想」から始まったので、カード支援の話かと思いきや、そっちのカードやったんですねぇ・・・
この書き方は確信犯ですねww 以前、香川大学教育学部附属特別支援学校の研究大会に行った事がありますが、凄く勉強になったのを覚えています。
今回の話の最後に出てくる「計算は出来るけど、買い物が出来ない」これは支援者として、常にイメージしておかないとダメですね。支離滅裂になってしまいますもんね。他にも「～出来るけど、～出来ない」事を考えないとですね。 久田

第67回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

カードを使うという発想

2014年2月8日の大雪の中、香川大学教育学部附属特別支援学校で研究大会が開かれました。
全国から多くの方々が参加いただきました。

この研究会で、中学部では少し新しい発想で提案を行いました。それは、ICカードを使って買い物をしようというものです。生徒たちは、お金を自分で入金して、その金額以内で買い物をするという活動です。この活動をどのように考えるでしょうか？ある先生は考えるでしょう。「カードを使うのはお金の計算ができるようになってからではないのか？」というように。同じように考える先生はとても多いのではないかと思います。

ここに発想の転換がいののではないかと思いますのです。お金の計算が十分にできないからこそカードを使って買い物ができるようにするという発想です。お金の計算ができることと、買い物ができることというのを分けて考えるということです。お金の計算ができなければ、買い物ができないということになると、いくら学校で学んだとしても、一人で買い物をすることができない児童生徒が数多く残るのではないかと思いますのです。

特別支援学校の学習指導要領解説の中学部の各教科のところには以下のように書かれています。「この段階では、将来、社会生活を営む上から、消費についての指導も重要である。中でも、物品には定価があり、購入する際には消費税を含めて支払うことや、計画的な消費をするための預貯金の指導、あるいは小遣い帳の指導などは欠かせない事項である。なお、日常生活での使用が増えている現金や切符に代わる各種カードなどの使用については、個々の生徒の実態や地域性などに応じて指導することが望ましい。(以下略)」

授業の後、生徒たちはカードを使って実際に買い物ができるようになりました。子どもたちの生活が豊かになるように、私たちはどのようなことをしっかりと教えていけばいいのか、考えなくてはなりません。」お金の計算はできるけれど、買い物ができないという子どもを育ててはならないのです。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭、香川大学教育学部障害児教育コース准教授を経て、現在は国立大学法人香川大学教育学部教授。1997年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。その軽快なしゃべり、人柄からか、大阪では絶大な人気を誇る。

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション(やまびこの里) クラスルームコミュニケーション(こころリース出版会) 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア(エンパワメント研究所) など